

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2011年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.56 「思い(意思)を伝える」

先日、古くから付き合いのある OA 機器販売会社の社長から依頼を受け、愛知県リコー会で講演をしました。テーマは「コミュニケーション能力が利益を産む」です。販売会社に必要なコミュニケーションのあり方について話したのですが、講演後の食事会で興味深い話を聞きました。相手は中部圏を統括するリコー日本の常務執行役員の A 氏です。

A 氏は販売店に感謝のメッセージを送る時、メールではなく、わざと FAX を利用するというのです。文章はもちろん手書きです。

氏曰く「メールだと、販売会社の経営者の目にしか触れません。FAX にすると従業員の誰かの目に留まり、私(リコー日本)の意向が相手企業の従業員全体に伝わります。すると、全体の業務に対するモチベーションが高くなると思うのです」

目からウロコです。現在はメールという便利な道具のお陰で、一部の情報伝達以外に FAX を利用することはなくなりました。しかし、こうして考えてみると、FAX の利用価値はまだまだありそうです。たまには、FAX レターをご家庭に送ってみるのもいいかもしれません。

ただ、ここで皆さんとシェアしたいのは「新たな FAX の利用法」ではありません。いかに「あなたの意思」を多くの人(当事者の周囲の人)に伝えることが大切かということです。人は、自分が褒められることよりも、「自分の好きな人が褒められること」に大きな喜びを感じます。ましてや、それが我が子ならば尚更です。

塾の教師にとって「褒め方」「叱り方」は重要な技術です。定期的に「褒め方」「叱り方」の研修を行なっている塾も多いことでしょう。そこを一步進めて、生徒を称えていることを保護者にも伝える方法を考えてみてはい

かがでしょう。それこそ、現在はメールという便利な手段がありますから、伝達コストに悩む必要はありません。誰にでも実行可能です。

A 氏はまた、「確かに手書きで FAX を作成するのは手間隙が掛かります。しかし、手間隙を掛けないと、こちらの真意は伝わらないものですね」とも言います。私が講演で「あなた」にはお馴染みの「手書きレター」や「ニュースレター」の話をしたので、「我が意を得たり」と思って話し掛けてきたようです。このコラムのテーマが「感情の論理」であるように、人は感情で動く唯一の生き物であり、それを忘れたコミュニケーションは成立しないのです。

塾は究極のアナログ・ビジネスです。確かに、教材や情報管理にはデジタルの恩恵が大です。しかし、つまるところ人対人のビジネスです。リコーという日本を代表するデジタル機器メーカーの上層部が「人の感情」を大切にしていることを知り、私こそ「我が意を得たり」という気分になりました。

さて、猛暑節電の夏が過ぎたばかりのようですが、気付けば今年も残り2ヶ月と少しです。冬期講習、入試直前講習の準備に入る季節となりました。ぜひ、その重要性を訴えて講習生を一人でも多く獲得して下さい。要項を伝えるだけならインフォメーションです。コミュニケーションの意味は、「思いを伝えて、相手に行動してもらうこと」です。そのための工夫、技術を磨くのがプロの仕事です。

第8回 来年から始まる新しい中学校の学習内容

すっかり秋めいてきましたね。いよいよ受験へ向けて追い込みのシーズンがやってきました。どうかお身体には十分お気をつけください。

さて、今回からいよいよ中学校の新指導要領を説明していきます。中学校の新指導要領は来年4月から全面実施されます。現在は移行措置期間なので、数学や理科などの指導内容が地域によって多少異なっていますが、来年からは新しい教科書が導入されますので、指導内容は統一されていきます。

では、何が大きく変わるのかを大きく4つに分けて説明いたします。

①新指導要領における英数国理社の授業コマ数

<中1>

国語・数学・英語：140コマ（週4コマ）

社会・理科：105コマ（週3コマ）

<中2>

国語・理科・英語：140コマ（週4コマ）

数学・社会：105コマ（週3コマ）

<中3>

数学・英語・理科・社会：140コマ（週4コマ）

国語：105コマ（週3コマ）

今までの改訂と異なるのは、週3コマ→週4コマになる科目が学年によって異なることです。中2では理科が重視され、数学が週3コマのままです。次回で詳しく説明しますが、数学は中1と中3のボリュームが増えています。9教科全体では約1割の授業時間数増加です。移行期間中の授業時間数の推移に関しては、文部科学省から配布可能資料がありますので、次のURLからプリントアウトしてください。

【移行期間中の小中学校授業時間数の推移】

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afeldfile/2011/03/30/1234773_004.pdf

②英数国理社の教科書のページ数

ページ数については、2006年改訂時と比較して、9教科全体では約24%の増加、特に理科は約45%、数学は約33%増加となっています。理数系の強化が目的なので、ページ数増加の理解はできるのですが、指導する先生にとっては負担も増加し、果たしてきちんとした指導ができるかが問題になってきそうです。ゆとり教育世代の若い先生にとっては厳しい状況となりそうですね。

③「生きる力」の育成

2002年改訂から始まった「生きる力」の指導をより強化しています。「生きる力」というのは、知・徳・体のバランスのとれた力のことを指しています。

文部科学省は、次の3点が重要といっています。

I：基礎的な知識・技能をしっかりと身に付けさせる

II：知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育む。

III：学習に取り組む意欲を養う。

「ゆとり教育」か「詰め込み教育」とかではなく、バランスよく育てることが大切。また、学校・家庭・地域との連携をしていくことも目指していきます。

【文部科学省パンフレット 2011/3/30 作成（配布可能資料）】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/_icsFiles/afeldfile/2011/03/30/1304395_001.pdf

④その他

・スパイラル学習の導入

前学年の復習内容を盛り込み、授業の中で復習を取り入れます。また、「間違えるポイント」などの掲載も可能。

・伝統文化教育

日本独自の伝統を教えていきます。例えば、社会では国宝・文化遺産、音楽では曲数を増加、保健では武道を必修、家庭では地域の食文化や和服といったような単元の指導を行います。

・外国語教育の充実

小5から英語教育が始まったことにより、中学では語彙数を1200語に増加させ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことをバランスよく教えていきます。

・体験活動の充実

小学では自然の中での集団活動、中学では職場体験活動が導入されます。

・思考力、判断力、表現力の育成

資料をまとめたり、経験を報告したり、自分の意見を自分でまとめる活動を育てます。これは全教科の中に新しく追加された内容です。次回以降に説明します。

・道徳教育の充実

あいさつ、規範意識、生命の尊重など基本的な道徳性を養います。

来春から始まる中学の新指導要領を簡単に説明してきましたが、みなさんはどのように感じましたでしょうか。今回の新指導要領は全面的に学習量の増加を促しています。このこと自体はとてもいい傾向だと思います。ただ、一方でゆとり教育世代と呼ばれる10代後半～20代をどのように育成していくかはとても重要なことになるでしょう。これからは、新しい指導内容の授業研修や人材育成プログラムの見直しが必要になってきている…と感じているのは私だけではないと思います。

今回は、中学校理数系教科の説明をしていきます。では、また。。。

■元々確執のあった幹部たち

—継承問題が挫折したという噂がありますか？

「継承を予定していた娘の婿殿が実家の仕事を継がなければならなくなったので、第一継承者が不在になっただけですが、その次のことを考えていなかったものですから・・・しかし、創業以来、辛苦を共にしてきた幹部のほとんどが現役バリバリですから、それほど心配はしていません。

この上は、私も覚悟を決めて『生涯現役』で本業重視、原点の現場主義、生徒の目線での指導に徹します。

婿殿は元々幹部たちとの協調性に乏しいというか、塾という仕事自体が肌合い合わなかったようです。彼がいなくなって、正直なところ幹部はホッとしているようです」

■原点に戻り本業重視しかない

—当面の経営方針について教えてください。

「今述べたように、本業重視ということで、もう一度原点に立ち戻り、私を先頭に塾内部を立て直して・・・具体的には、校舎責任者の適性を確認して配置換えを行います。校長次第で校舎の差は大きく違うからです。

もう一つ大きな内部改革は、基礎学力の定着にこだわること。これは学校レベルの基礎学力も含めて、そのプラスアルファという意味です。それをベースとして、さらに精神的にタフな子にしていく・・・春と夏の合宿を充実させ、講習会を細分化して、アバウトなイベントではなく、明確な目的を持つ内容としたい。合宿の施設は安全性や無理のない旅程、環境や食事の付加価値なども考慮して決めたいと思っています。

長く合宿を運営してきましたが、参加する生徒数が増えるほどに、マンネリ化していたという反省があります。初心に戻って生徒に向き合ってみたいのです」

■鍵を握る「高校部の建て直し」

—全体で最も重要な改革は何でしょうか？

「やはり高校部ですね。小中と塾に通っても、さらに魅力的な高校部があれば必ず来てくれるという確信があります。下手にアウトソーシングに頼らず、集団のライブ指導で盛り返したい。刺激の場として集団指導は欠くべからざるスタイルですから。

今後も少子化が続き、2050年頃には現在の生徒数の半分ほどになると予測されていますから、それを見据えた塾経営をしていかなければならない。そしてそれを継承してもらう。小中高の一環指導を目指しますが、それぞれが独立した価値観も持てるようにしたい。どこをどう切っても価値の高い塾だと外部から見られるようにしたいのです。金太郎飴のように・・・。

その時、教育コンテンツのデジタル化がどこまで進化しているのか？ わからないけれどもですね、確実に言えることは、『省力化』は至上命題である・・・と。限りなく人の代わりに機械が仕事をしてくれる時代になるし、一方で人間がコンピュータに依存しないと生きていけない時代にもなると思います。人間と同じで塾も『完成』というものはなく、つねに進化していかないと生き残れません」



鎖国

誰が「鎖国とは何か」という意味を決めたのでしょうか？ 朝廷では、明治維新に至るまで、「日本は江戸時代以前からずっと鎖国だった」と思っていたようです。

江戸時代でさえも実は鎖国と言っても、清国とオランダの二国とは貿易その他で関係が続いていたわけですから、「鎖国は対外的に外国船が自由に出入りしないようにするための宣言のようなもの」とも言えるかもしれません。

まして国内では、鎖国というものに対する特別な意識はなく、庶民は例外なく「これが当たり前」という気持ちで生活していたのです。

漂流

廻船が江戸と大阪をはじめ日本の沿岸を、荷物を積んで回遊していましたが、ご存知のように太平洋側は黒潮の日本海流が北上しそれに親潮の千島海流が南下して、一つ間違えると北太平洋海流に乗って太平洋のど真ん中まで流されてしまうこともありました。

また、今のように台風の情報がいち早くわかる手だてなどありませんから、途中で台風に遭遇した場合は手のほどこしようなないダメージを受けて、積み荷を捨て帆柱も切って「漂流」のままになるしかありませんでした。

多くの漂流船がカムチャッカをはじめロシア領に流れ着き保護されましたが、日本人の体験したことのない過酷な寒さと食料不足により、半数以上の人たちが短期間に異国の地で土になりました。

18世紀の帝政ロシアは、女帝エカテリーナに代表される専制君主制で独裁的な政治を行っていましたが、不凍港を得る「南下政策」において、日本という国の実情を知ることが最重要事項であつたらしく、鎖国の中で貿易の認められていたオランダから定期的に情報を得ていました。

しかし、それだけでは足りず、カムチャッカなどに流れ着いた漂流者たちから情報収集するだけにとどまらず、彼らの中から「日本語教師」を仕立てて、露日交渉の通訳のできる人材育成も進めたのです。

日露戦争と第二次世界大戦

明治時代後半、日露は互いの中国政策で衝突し、遂に1904年日本がロシアに宣戦布告しました。大国ロシアとの戦争は限界を超えた消耗を日本に強いましたが、翌年の日本海海戦での勝利により、奇跡的な勝利を日本は勝ち得たのです。ロシアが誇る世界最強の「バルチック艦隊」を東郷平八郎率いる連合艦隊が打ち破ったことは、ロシアにとって最大の恥辱であり、それは第二次世界大戦末期の突然の日本に対する宣戦布告と大量の日本兵のシベリア抑留へとつながります。北方領土の返還問題もいまだ解決されておらず、島国日本をとりまく国境紛争は、宿命的に今後も続いていくものと思われます。

国内の政治や東電をはじめとした大企業の姿勢がしゃんとしていなければ、外交交渉もうまくいくわけがないと・・・素人なりに思ってしまう。同様に、規模がどうであろうとも、塾・予備校もつねに内部充実を図っておかないと外での戦いに勝つことは到底無理な話です。